

三つのポリシー策定のプロセス 教育コーディネーターの役割

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室

清水 栄子

本報告の目的

■3ポリシーの策定プロセス

①組織

○トップダウンに近い形で決定されたケース

○組織的に決定されたケース

教務・学務系の委員会、コース・学科などの教育実施組織の教員会議、そのほか

(私学高等教育研究所2014:齋藤ほか2014)

②全学的なコンセンサスを得るために

○講演会等による全学的な啓蒙

○学部・学科の執行部(カリキュラム作成委員)に対する学習会

○策定作業は専門家等(FDセンター等の教職員)の指導・支援

(沖、2015)

■本報告の目的

・愛媛大学の学部・学科および全学の3ポリシー策定の経緯を報告する

・作成プロセスとその後のアセスメントにおいて教育コーディネーターが担う役割について整理する

内容

1.学部・学科の三つのポリシー策定

1)教育コーディネーターによる構築

2)カリキュラム・アセスメントによる評価

2.全学の三つのポリシー策定

1)愛大学生コンピテンシー

2)アセスメントの実施状況

3)現在の状況

3.教育コーディネーターの担う役割

1.学部・学科の三つのポリシー策定

1)教育コーディネーターによる構築

■教育コーディネーターとは？（2006年度発足）

学部・学科などの教育責任者

教育方針の立案、カリキュラムの編成、教育内容の改善などの活動に中核的な役割を担う教員

○教育重点型教員

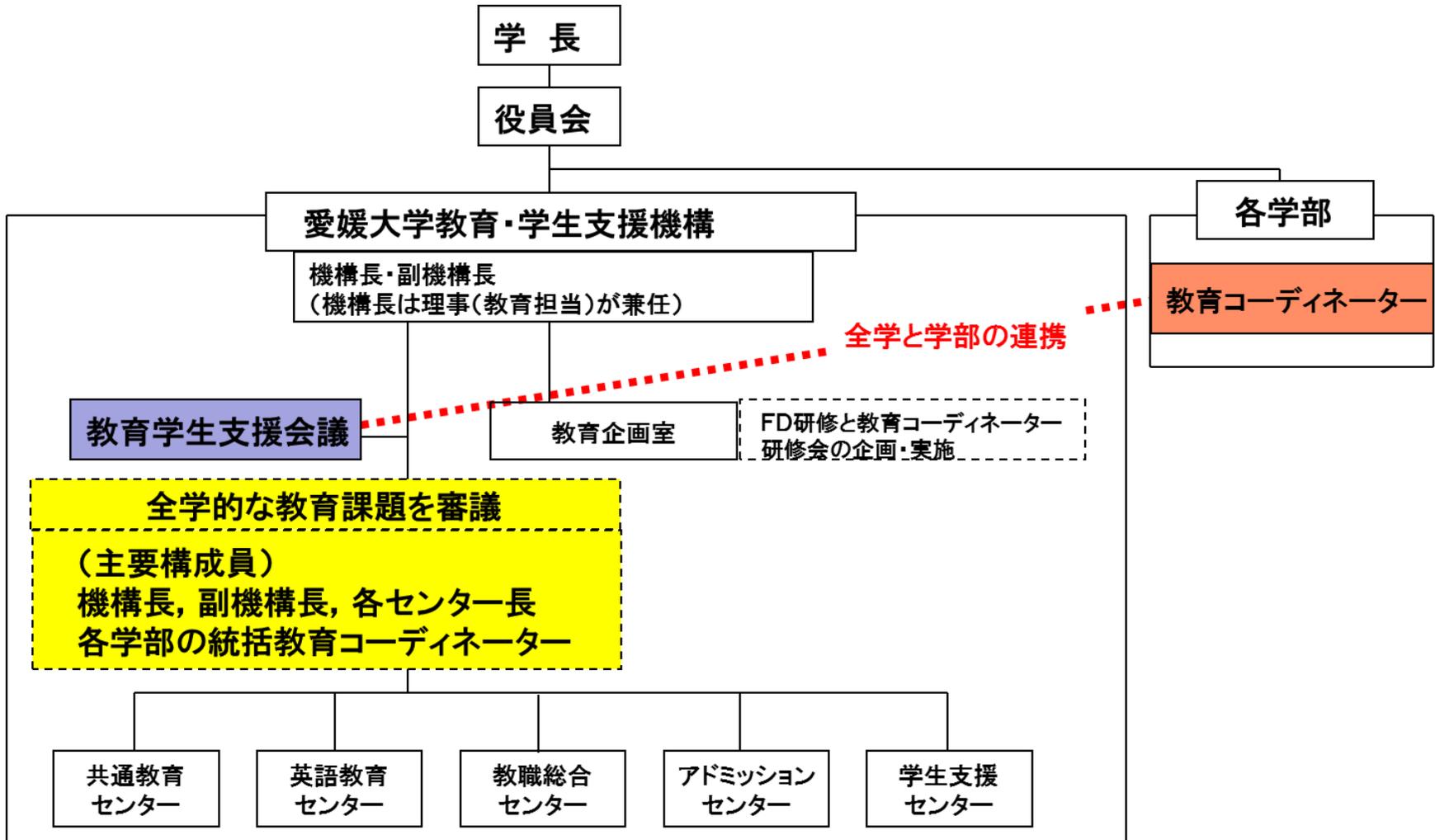
○学部長推薦、学長指名(60余名)

学科、教育コースなどのカリキュラム単位ごとに最低1人を配置

各学部の副学部長クラスを統括教育コーディネーターとして指名

○標準任期は、専門性・継続性を考慮して4年

■ 教育学生支援会議



■ 教育コーディネーター研修会 年4～5回開催

目的:全学の教育コーディネーターが集まり,技法取得や情報交換を行うとともに,教育改革の全学的方向性について認識を共有する。



【研修会テーマ】

平成19年度:「学士課程の体系化～DP・CP・APの策定と一貫性構築～」

平成20年度:「学士課程教育の体系化と授業改善

～カリキュラムマップの作成とティーチング・ポートフォリオ開発～」

平成21年度:「学士課程教育の体系化 ～カリキュラム・アセスメントと単位の実質化～」

平成22年度:「PDCAサイクルと単位制度の実質化」

平成23年度～25年度:「汎用的能力の育成」

平成26年度:「マイクロレベルのFD:“学生の学び”の質保証のための方略を考える」

平成27年度:「今後の入学者選抜のあり方を考える ～学力の3要素とAPの実質化～」

平成28年度:「愛媛大学における入試改革 ～高大接続を中心に～」

2007～2008年 教育コーディネーター研修会を中心に

【背景】

教育重視

大学評価への対応

【手順】

(1)各学部・学科でDPを設定

(2)各学部・学科のDPや授業科目の目標を基にカリキュラム・
チェックリスト(CCL)を作成

(3)各学部・学科のDPとAPを照らし合わせて既存のAPを見直し

(4)(1)～(3)を踏まえたカリキュラムの整備

カリキュラムマップの作成

一貫性のある三ポリシーの構築

【特徴】

- 教育コーディネーターの関与
 - ⇒各学部の意見集約、他学部との調整
 - ⇒全学的に統一されたフォーマット
 - ⇒カリキュラムを統一的な視点から
- DP—客観的評価を可能にするよう工夫
 - ・卒業時の到達目標を5領域に設定
 - 「知識・理解」「思考・判断」「興味・関心・意欲」「態度」
 - 「技能・表現」
 - ・学生を主語に文言化
- DP—AP、整合性を確認

2)カリキュラム・アセスメントによる評価

教育コーディネーター研修会

2009年 カリキュラム・アセスメント・チェックリストの作成

2010年～ ピア評価の実施

各学部・学科における自己評価の実施

※カリキュラム・アセスメント(CA)

教育目標(DP)を達成するために

- ・カリキュラムが適切に組みられているかどうか
- ・目標どおりの教育成果を生み出しているかどうか

学生、教員および企業関係者から意見や評価を収集

2.全学の三つのポリシー策定

2014～2015年 協議

2015年 教育学生支援会議、役員会、教育研究評議会

【背景】

第3期中期目標期間の開始に向けて、愛媛大学が掲げる「学生中心の大学」という理念の実現

【特徴】

「愛大学生コンピテンシー」(2012年制定)^{※1}の学士課程教育における位置付けをより明確にした

※1

正課教育・準正課教育(co-curricula)・正課外活動(extra-curricula)の全てを通して「学生が卒業時に身に付けていることが期待される能力」卒業時に身につけておいてほしい目標

1) 愛大学生コンピテンシーとDP, CP, AP

平成24年6月20日 教育学生支援会議資料3

「愛大生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」の構成要素

5つの能力	12の具体的な力
I. 知識や技能を適切に運用する能力 (Management of Knowledge and Skill)	1. 必要な情報を収集・整理できる 2. 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる 3. 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現(記述・口述)できる
II. 論理的に思考し判断する能力 (Logical and Critical Thinking, and Decision Making)	4. 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる (例: クリティカル・シンキング/創造的思考) 5. 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる (例: 意思決定・判断力/課題探求・発見・解決力)
III. 多様な人とコミュニケーションする能力 (Diversity, Communication and Collaboration)	6. 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる (例: ダイアログ/ディスカッション/プレゼンテーション) 7. 目的達成のために多様な人と協働できる (例: 協調性/チームワーク/リーダーシップ)
IV. 自立した個人として生きていく能力 (Self Management and Identity Development)	8. 自らの個性や適性を活かして行動できる (例: 自己理解/自己決断/リフレクション) 9. 社会的関係の中で自分の行動を調整できる (例: 順応性/セルフマネジメント/規範遵守)
V. 組織や社会の一員として生きていく能力 (Community Service and Citizenship)	10. 他者を理解し、他者のために役立つことができる (例: お接待の心/ホスピタリティ) 11. 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる (例: 責任感/連帯感/帰属意識/愛校心) 12. 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる (例: 社会貢献/グローバルマインド)

卒業

愛媛大学憲章

「愛大学生コンピテンシー」

学部DP

学士課程教育

専門教育科目

学士基礎力

共通教育科目

正課教育

準正課教育

正課外活動

4年

3年

2年

1年

SCV

UNGL

SA

SHD

スタディスキル
講座

J-サポート

就職セミナー
など

ELS

ESD

食育
など

部活

サークル

など

入学

愛媛大学の「ディプロマ・ポリシー」 (学位授与の方針)

愛媛大学は、学士課程教育の方向目標としての「愛媛大学学生として期待される能力(愛大学生コンピテンシー)」を、各学部のディプロマ・ポリシーが求める能力を包含しつつ、より広範囲にわたるものとして定めています。学士課程の卒業を認定する7つの学部(新学部を含む)とSSC特別コースは、全ての学生に卒業までに求められる**正課教育の到達目標**として、学士の学位に関する学位授与の方針(DP)をそれぞれ定めています。

愛媛大学の「カリキュラム・ポリシー」 (教育課程編成・実施の方針)

愛媛大学は、「愛媛大学学生として期待される能力(愛大学生コンピテンシー)」として、専攻分野の違いを越えて全ての学生に対して卒業までに身につけることを期待する「5つの能力・12の具体的な力」を独自に定めています。これは、愛媛大学における多面的・総合的な学びの成果として追求されるべき目標でもあります。愛媛大学は、これらの能力を育成するために、共通教育では本学の「学士基礎力」達成のための、そして7つの学部(新学部を含む)とSSC特別コースではそれぞれのディプロマ・ポリシー達成のための正課教育を提供するとともに、卒業要件には含まれない多様な準正課教育を充実させます。さらに、学生がキャンパスの内外において様々な正課外活動を行うことができるように、ソフト面とハード面の双方で学生を支援します。

愛媛大学の「アドミッション・ポリシー」 (入学者受け入れの方針)

愛媛大学は、「学生中心の大学」「地域にあって輝く大学」「世界とつながる大学」を目指している本学の一員となって、主体的に考える力や予想外の事態を乗り越える力を、生涯にわたって研鑽し身につけたいという意欲をもつ学生を求めます。そのために、7つの学部(新学部を含む)とSSC特別コースのそれぞれにおいて、高等学校等で得られた基礎的な知的能力(知識・技能及びこれらの活用能力)の評価だけでなく、能力・意欲・適性等を**多面的・総合的に評価する**入学者選抜を行います。また「世界から学生が集う大学」を目指し、留学生を含む多様な属性をもった学生に対して門戸を開きます。

2) アセスメントの実施状況

2015年 7月 教学アセスメント・ポリシー制定

(目的)

1. 本学は、学生が「愛大学生コンピテンシー」及び「ディプロマ・ポリシー」の到達度を高めるための重要な手段の一つとして教学アセスメントを行う。

(方法)

2. 本学は、学生アンケートの新規開発や改訂、成績や就職 状況等の教学関係データの整備を行う。

(以下省略)

3)現在の状況

①全学アセスメント

全学対象アンケート調査の改訂

教育目標(DP)、愛大学生コンピテンシーの評価

②APの見直し

“学力の3要素”を踏まえたAPの見直し

2015年 教育コーディネーター研修会で実施

今後も継続的に検討

3. 教育コーディネーターの担う役割

①全学的啓蒙

- ・各学部の意見集約、他学部との調整による全学的な検討、策定、見直し
- ・学部間のピア評価による改善への貢献

②学部・学科の執行部への学習会

- ・教育コーディネーター自身のカリキュラム等への理解・認識の深まりにより、学部内での理解を促進

③策定作業は専門家等指導・支援

- ・教育コーディネーター研修会による作成＝教育企画室との連携
- ・全学アセスメントと学部間の連携

④そのほか

- ・継続的なアセスメントとFDの実施

- 参考文献

沖裕貴(2015)「3つのポリシーをどう策定するか」教育学術新聞2631号～2634号

齋藤聖子・野田文香・金性希・鈴木賢次郎・武市正人(2014)『高等教育機関における学習成果に関する調査報告書』大学評価・学位授与機構

私学高等教育研究所プロジェクトⅣ学士課程教育におけるマネジメント研究(2014)
『大学の特色に応じた教学マネジメント』